

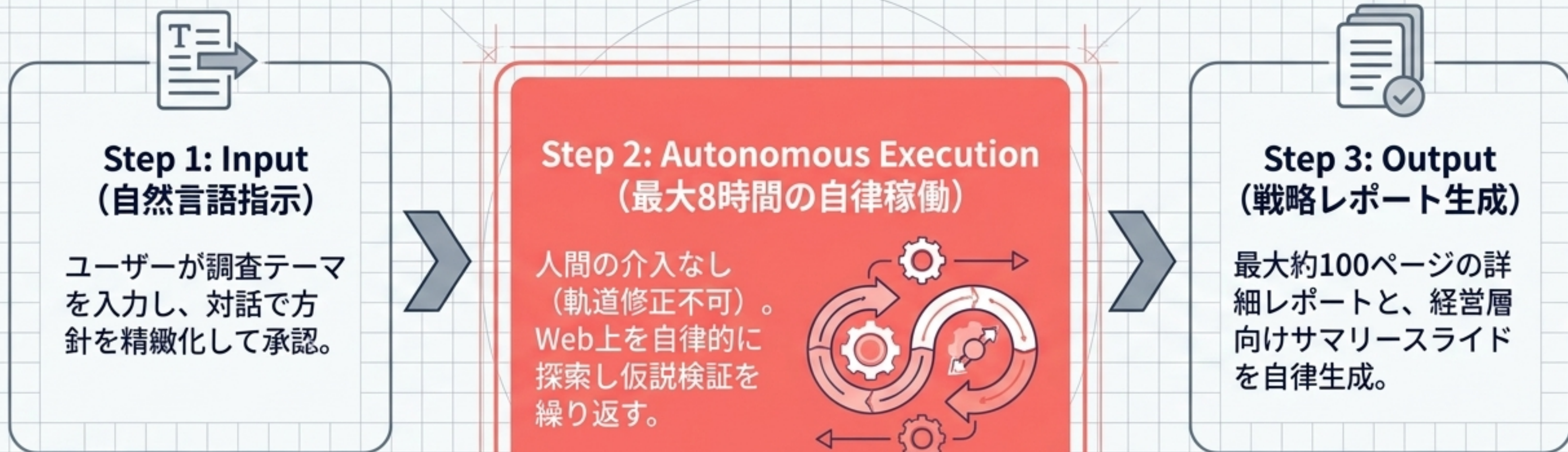
# Sakana Marlinの徹底調査と 知財業務への適用評価

自律型リサーチエージェントの  
戦略的価値と導入ロードマップ  
(2026年6月版)

# 経営層向けサマリー：有望な「補完ツール」であり、代替ではない

|  結論<br>(Verdict) |  最適領域<br>(Sweet Spot) |  不適領域<br>(Limitations) |
|---|--|---|
| <p>条件付きで有望。現時点では特許専用ツールの代替にはならず、戦略レイヤーの「補完」として機能。</p>   | <p>IPランドスケープ・競合分析・技術動向。特許外の文脈（市場・規制・M&amp;A）の構造化に圧倒的優位性。</p>   | <p>無効資料調査・FTO（侵害予防）。法的証挺拠水準の担保、および特許DBの網羅的アクセスに欠けるため単独利用は不可。</p>  |

# Virtual CSO: 数週間の戦略調査を数時間に圧縮する自律エージェント (プレミアムスチリーラル)



# パラダイムシフト：「分単位の検索」から「時間単位の思考」へ

Time-to-Result (推論時計算の深さ)

秒単位 (検索)

Standard LLMs  
Google

即時応答型  
推論時計算を最小化

分単位 (深掘り検索)

Perplexity (~3分) /  
OpenAI Deep Research (7~20分)

消費者・一般調査向け

時間単位 (自律思考)

Sakana Marlin  
(最大8時間)

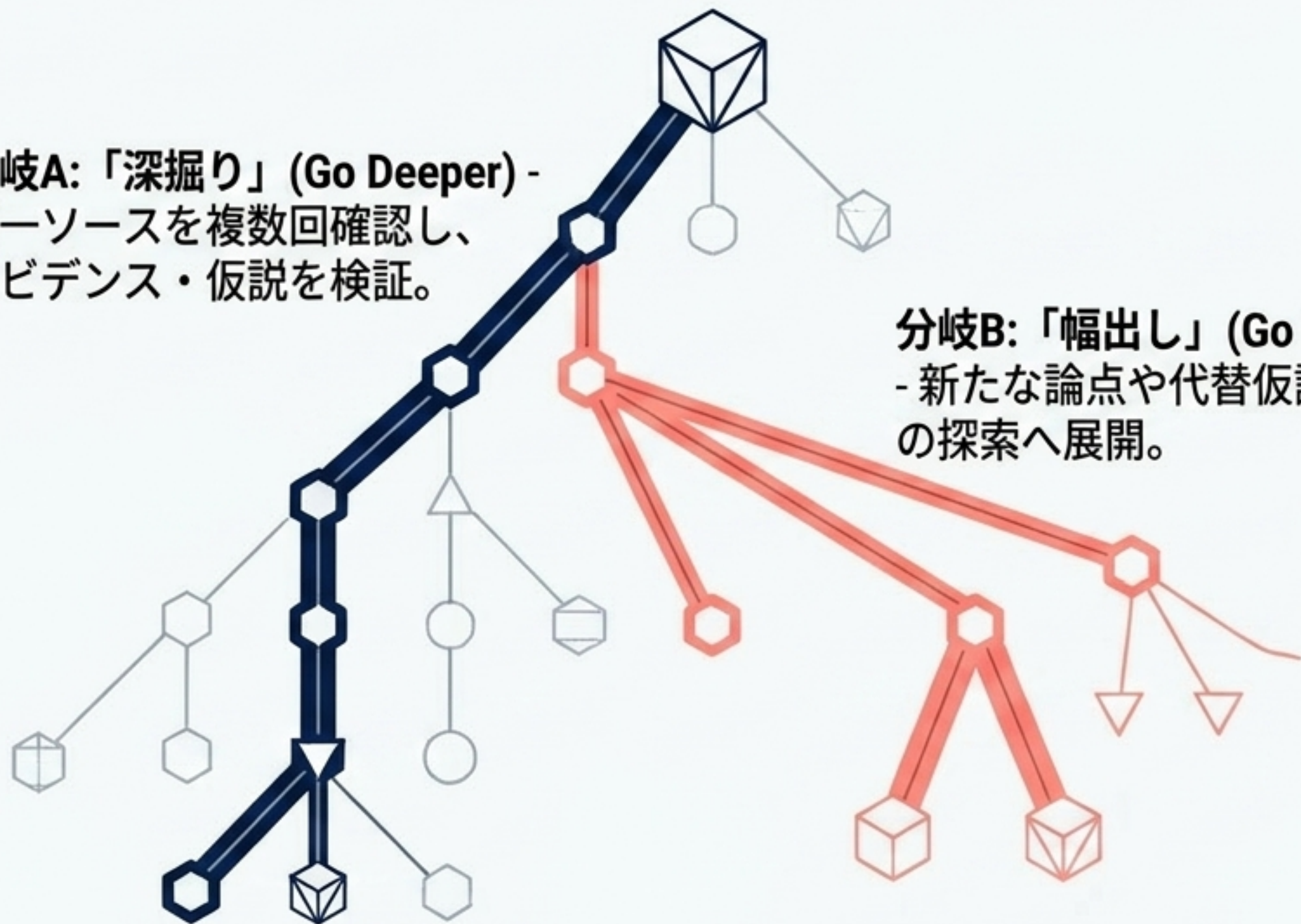
1セッションで数百~数千回の  
LLM呼び出しを実行。  
エンタープライズ戦略立案特化

Key Takeaway: Marlinは「調べてほしい」ではなく「考えてほしい」というCレベルの要求に応える設計。

# 自律探索の中核技術：AB-MCTS（適応型分岐モンテカルロ木探索）

分岐A:「深掘り」(Go Deeper) -  
同一ソースを複数回確認し、  
エビデンス・仮説を検証。

分岐B:「幅出し」(Go Wider)  
- 新たな論点や代替仮説  
の探索へ展開。



## Namazu & Multi-Model

自社モデル「Namazu」と他社最先端モデルを動的協調（ARC-AGI-2で単体モデルを凌駕）。

## Scientific Pedigree

Nature誌掲載の「AIサイエンティスト」のワークフローに由来。NeurIPS 2025採択論文のオープンソース実装「TreeQuest」がベース。

# 料金体系と知財部門の導入コスト目安

| プラン     | Pay per use           | Pro                           | Team                          | Enterprise |
|---------|-----------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------|
| 月額      | 月額無料                  | 月額 ¥150,000                   | 月額 ¥400,000                   | 個別見積       |
| 付与クレジット | 従量課金<br>(追加¥98/クレジット) | 2,000クレジット付与<br>(追加¥90/クレジット) | 6,000クレジット付与<br>(追加¥85/クレジット) | カスタマイズ     |

知財実務目安：  
約15~20回の調査/月

知財実務目安：  
約60回の調査/月

1回の調査実行に100クレジット（約1万円相当）を消費。  
セルフサービスで即日利用可能。

# 知財業務への適用性評価マトリクス

| 業務領域            | 適用性   | 評価理由  | 推奨アプローチ                        |
|-----------------|-------|---|--------------------------------|
| 競合分析・<br>技術動向   | ● 高   | 事業戦略変化、規制環境、M&A<br>動向を数時間で構造化できる。             | 単独利用で未来予測シナリオ<br>作成の素材に。       |
| IPランドスケープ       | ● 高   | 特許外の事業環境分析（文脈情<br>報）の補完に圧倒的強み。                | 川上工程の下調べに活用（特<br>許定量分析は別ツールで）。 |
| 先行技術・<br>無効資料調査 | ● 中～低 | 非特許文献の初期スクリーニン<br>グには有用だが、特許DBの<br>網羅的アクセス不可。 | 調査の方向性・キーワード抽<br>出に限定。         |
| FTO<br>（侵害予防）   | ● 低   | クレーム解釈や権利存続状況の<br>法的判断が不可能。                   | 周辺事情の把握補助にとど<br>め、主軸にはしない。     |

# 適用推奨領域：IPランドスケープと競合戦略の「文脈」補完



Marlinは、知財部門が事業部門へ提供する「コンサルティング型知財 (未来予測・シナリオ提案)」を加速する強力なエンジンとなる。

# 適用注意領域：無効資料調査・FTOにおける法的限界



## 網羅性の欠如

公開Web主体であり、J-PlatPat等への直接接続やファイルアップロード機能がない。「調査漏れの説明責任」を負えない。



## 法的判断の不可

特許のクレーム解釈、権利存続状況（有効/無効）の法的な確証を得る能力はない。



## ハルシネーション・リスク

60～80件の参照元が提示されるが、特許番号や文献の捏造リスクに対する独立した第三者検証が存在しない。人間による全出典確認が必須。

# ハイブリッド・エコシステム：知財専用AIツールとの棲み分け

## Sakana Marlin (汎用戦略リサーチ)

**対象:** 公開Web情報・広範な  
非特許文献

**役割:** 文脈・戦略・規制レイヤ  
ーの構造化

## Patentfield, PatSnap, サマリア (知財専用AI)

**対象:** 特許DB (J-PlatPat等)、  
プライベート環境

**役割:** 特許文献を一次対象とした  
定量分析・特許読解・FTO検索

両者は競合ではなく補完関係。機微情報を扱う知財実務の要件に応じてツールを使い分ける設計が必要。

# 機密性と信頼性要件：エンタープライズ・ガバナンス

## ● 学習データ利用 (Confidentiality)

オプトインなしで学習・再学習に利用しない方針（三菱UFJ銀行等での実績あり）。ただし外部API利用とデータ保存リージョンは要確認。発明・出願前情報の入力には当面控えるべき。

## ● 出典の厳密性 (Accuracy)

一次情報ベースの検証機能はあるが、法的証拠水準には未達。（過去に「AI CUDA Engineer」性能過大評価の訂正事例あり）。

## ● 日本語対応 (Language)

日本市場メインの「ソブリンAI」思想。日本語の規制文書や商習慣の文脈理解において、英語起点AIに対し優位性。

## ● 対象データ (Scope)

社内非公開データのみで完結する調査や、公開情報が存在しないニッチ領域には不適（公式FAQ明記）。

# 知財部門向け 導入ロードマップと推奨アクション

## Phase 1: 低リスク検証 (0~3か月) – Pay per use

IPランドスケープの事業環境・規制動向の下調べに限定。出力の全出典を手で検証し、品質・捏造のベースラインを計測。

## Phase 2: ハイブリッド運用設計 – Pro / Team Plan

有用性確認後、月15回 (Pro) または月60回 (Team) 規模で本格稼働。専用ツール (特許定量) と Marlin (文脈) の役割分担をプロセス化。

## Phase 3: 機密性ガバナンスの 確立 – Enterprise

情報システム・法務部門と連携し、データ保存場所と監査ログを確認。発明・出願前情報を入力するためのセキュアな社内ルールの明文化。

# 判断を変えるトリガー：今後のモニタリング指標



## Trigger 1: 特許DB接続・ファイルアップロード実装

Marlinに機能追加された場合、先行技術調査の補助利用としての価値を再評価する。



## Trigger 2: 第三者ベンチマークの公表

捏造率・誤引用率に関する独立した定量評価が確立された場合、無効資料調査での利用範囲を拡大検討する。



## Trigger 3: 知財専用ツールの自律化進化

競合する知財専用AIが「長時間の自律稼働・戦略構造化」を実装した場合、専用ツールへの一元化を比較検討する。

# 本評価における前提条件と情報の限界 (Caveats)

- ✓ **情報源の時点:** 本稿は2026年6月時点の公開情報（リリースブログ、一次取材記事、検索インデックス上のFAQ等）に依拠しています。
- ✓ **未確定仕様:** データの物理保存場所、地域提供制限、ファイルアップロード機能の正式有無などは、導入前に最新の利用規約・プライバシーポリシーでの確認が必要です。
- ✓ **出力目安の変動:** レポート分量（最大約100ページ）や稼働時間（最大8時間）は、調査テーマの複雑さにより変動する目安値です。

## 結び：検索者から「戦略コンサルタント」への進化

---

**Sakana Marlinは、魔法のように法的判断を下す特許ツールではありません。しかし、膨大な事業環境の「文脈」を数時間で構造化するその能力は、知財部門の役割を劇的に変えます。**

データを探し集める「検索作業」をAIに委ねることで、知財プロフェッショナルは、事業部門に対する「未来のシナリオ提案」という本来の戦略的価値提供に集中することが可能になります。